第２回水と緑の森づくり会議（R1.11.13）　委員意見概要

○みーもスクールの取組は学校の判断によるところが大きいため、このような体験ができる子供とできない子供の差がでてくる。

　これから先、大人になって水森税などを納めることになるかもしれない子供達にも一律に（最低１人１回は）森林について学ぶ機会が必要であり、そのための実施の仕方もいろいろな工夫が必要ではないか。

　また、それらの活動の場となるフィールド整備も大切だと思う。

○「高校生に向けた林業就業講座の実施」について、小さな子供だけでなく、職業としての林業への理解を深めていくためには重要な取組であるとも思う。実際に森林作業に従事しているものとしても、高校生の職場体験等､安全面に注意を払えばいろいろな実施方法が可能だと思う。

○国の森林環境税の使途は市の裁量によるところが大きいが、一体何に使われているのか、実際にどのような効果があるのかをきちんと注視していく必要がある。

○みーも通信などで情報発信はされているものの、水と緑の森づくり税はまだまだ認知度が低いと思う。情報発信は非常に大変な面もあるが、たとえば各地域に情報発信のリーダーを配置する等、いろいろな取組をしていくことが必要である。